

校門におもかげ残す

ソーラーシステムやプレイルームも採用

日光小学校新築工事始まる

日光小学校の新築計画は、昨年
末から、一億百八十三万二千元を
かけ進められていた造成工事が終
り、昭和五十七年四月開校をめざ
して、七月三日、起工式を行い、

いよいよ建設工事が始まります。
総工費七億八百五十万円をかけ
て新築されるこの校舎は、鉄筋コ
ンクリート造り、三階建（一部二
階建）で、延面積は、五千八百七

十八平方メートルになります。

校舎は、南棟と北棟の二棟から
なり、南棟には、普通教室八、特
別教室五、その他保健室、職員室、
放送室などがあり、また、北棟に
は、普通教室十二、特別教室三、
その他職員研修室、資料室などが
作られます。

教室に

いろいろな工夫

校舎には、いくつかの特徴があ
り、低学年が利用する普通教室は、
南側のテラスを、教室の延長とし
て利用することができます。普通
教室は、全教室に、二教室単位で
可動間仕切りが取り付けられ、二
クラス合同の教育もできるように
なっています。このほか、市内の
学校としてははじめて設置する特
別活動室（プレイルーム）は、大
谷川・鳴虫山・男体山を一望に眺
めることができ、写生室など、多
目的に利用できるようになってい
ます。給食室は、利用度の高い中
高学年の普通教室に近い北棟の西
側に設けられ、二階にはリフトを
利用して給食を運搬できるように
なります。給湯設備は、太陽熱を



造成工事の終わった敷地

利用することによって省エネルギーが図られ、実地に教材としても活用されます。

また、旧校舎のおもかげを残すため、校門がそっくり使われるほか、時計台も作られます。

広さは六倍

野球場や

サッカーコートも

運動場は、現在の日光小学校の約六倍の広さがあり、西側上段に、サッカーコート、東側下段には、百メートル直線コースをもつ二百メートルトラック、および、両翼が九十メートルもある野球場が作られるなど、近代的設備を整えた校舎と、広い運動場のある素晴らしい学校が生れるわけです。

五十六年秋、校舎と校庭の完成後には、屋内運動場やプールの建設も計画されています。

表紙のことば

表紙シリーズ

日光むかしがたり

荒沢不動尊

日光三名瀑の一つ、裏見の滝に祀られている荒沢不動尊は、寛永元年（一六二四）に、東照宮別当大楽院初代住職の行恵が、奥州の出羽三山（羽黒山、月山、湯殿山）から勧請した不動尊です。出羽三山を開いた能除太子が、奥州の荒沢というところでの修行中に姿を現わした不動尊です。

行恵は、天海僧正の命に従って、裏見の滝に荒沢不動尊を祀り、ここを奥州の荒沢に見立てました。また、湯殿山の祭神を、男体山の火口付近に、月山の祭神を、太郎山のお花畑に、それぞれ祀りました。同時に、奥州にある志津や御婆様も男体山麓に配置され、古来からの男体山信仰の「男体山禅頂」（現在の登拝祭と、出羽三山勧請以後に発展した「三山掛け」（湯殿山詣り）を兼ねて登拝する講中の人達が、年々増加してきました。

この講中の行人達は、荒沢の裏見の滝を経て、ウリュウ坂、薬研堀を通り、志津の行屋に登ったのです。そして、